

世界遺産アカデミー認定講師夫婦の 仰天クスコの旅と私のコレクション

榎 利絵子(神奈川県) 賛助会費/世界遺産検定マイスター/世界遺産アカデミー認定講師



夜のクスコの街

十年ほど前に主人とふたりで出かけたペルー旅行。憧れだった『クスコの市街』、『マチュ・ピチュ』、『リマの歴史地区』、『ナスカとパルパの地上絵』という4つの世界遺産を堪能し、大満足の想い出深い旅となりました。ただ一つのハズレを除いては……。

私たちはスペイン語に困らないこともあり、個人手配で出かけました。日本からの長旅の末、最初に訪れたのは世界遺産の地・クスコ。現地ではペルー人のガイドを頼みました。クスコ到着直後のランチで、レストランからウェルカム・ドリンクとして「ピスコ・サワー」をいただきました。ペルーのブランデー「ピスコ」を使ったカクテルです。主人は長旅の疲れがあるにもかかわらず、あまりの口当たりの良さに一気飲みしてしまいま



ピスコ・サワー

した。すると間もなく、パタンッ!とものすごい音がして、隣を見ると主人が白目をむいて床に倒れていました。高地に在る現地のレストランやホテルには、このような事態に備えて、酸素ボンベの用意があります。その時、ガイドがスペイン語で「この人、息をしていない!」と叫びました。意味が分かってしまった私は、ただおろおろするばかり。こんなところで主人が死んでしまう……。もしそうなら、大使館への連絡、帰りの航空券(座席分)のキャンセル、主人の遺体を航空貨物にする手配など、緊急時の手順が、当時、海外添乗員だった私の頭の中を駆け巡りました(苦笑)。標高3,500mのクスコの街で、長旅の疲れとアルコール。倒れても仕方のない状況でした。幸い、ほどなくして、意識は戻りましたが、私は生きた心地がしませんでした。意識を取り戻した直後、主人は何事もなかったかのように、クスコ名物の「クイ(テンジクネズミ)料理」を美味しくに平らげていました。私はクイの味を思い出すことすら、できません。こうしてこの旅は、私たちにとって一番の“仰天旅行”となりました。皆さんも、ピスコ・サワーには、くれぐれもご注意ください。

そして、その時に買ったのが、このランチョン・マットです。素朴なデザインとペルーらしい色合いに一目惚れしました。我が家のリビングの壁に飾っています。それから、私がこの数十年かけて集めてきた土産品もご紹介します。各地で売られているその国や街の「ステッカー」です。ステッカーは、旅先でも気軽に買えて、荷物にもならず、帰国後も思い出として残ります。家の部屋のドアに貼っていて、今では“4枚目のドア”となりました。時々そのドアを眺めては、海外に思いを馳せて楽しんでいきます。

そんな私たちは、ふたりとも WHA 認



ランチョン・マット

定講師として、世界遺産講座をそれぞれ担当しています。先日、私の世界遺産講座に通う90歳のご婦人が、「世界中を旅して、土産品もたくさん買ったけれど、一番のお土産は、旅での貴重な経験や思い出なのよ」と話してくれました。私も、心に積み重なる旅の記憶というお土産を、これからも大切にしていきたいと思います。



各国のステッカーを貼ったドア